

# 「教育と学習環境に 関する1年次生調査」の結果から

広島大学自己点検・評価委員会

「刺のないバラはない」だが、バラの刺は多い(シヨールペンハワー)。さしずめ、学生の直言はバラの花の刺のよくなものであろうか。  
「学生の内なる声に耳を傾けよ」。これは改革の原点でもある。

## はじめに

広島大学自己点検・評価委員会は、教育研究上のさまざまな問題点を見出し、改革・改善の方途を探るために、平成六年秋に各構成員に質問紙調査を行った。これらの調査に基づいた自己点検・評価の結果は、昨年五月に刊行された「広島大学白書②、一九九五 新しい大学像をめざして―教育と研究との創発的展開―」に明らかにされているが、ここでは学部一年次生を対象に行った「教育と学習環境に関する調査」の概要を、協力いただいた学生の皆さんに報告させていただくこととした。一年次生調査が行われたのは、平成六年度から全学的に実施された教養的教育をはじめとするカリキュラム改革を点検し、統合移転の完了が目前に迫っていた東広島キャンパスの学習環境の実態を把握するためであった。

## 一. 回答者のプロフィールと入学状況

回答者の性別は、男五五%、女四五%であった。全体の構成(約二対一)よりも女性の回答者がやや多い。入試形態では、前期入試合格者七五%、後期一五%、推薦九%、その他(社会人、留学生特別選抜等)一%であった。また、現役七六%、浪人二三%、

## 二. 学部教育について

「高校の授業で学習しなかったため、大学の授業で理解しにくかったことがある」者は四五%、それがない者は五六%とおおよそ半々となっている。「一年次の授業で理解困難であった」ことが「よくある」は

## 三. 東広島キャンパスの学習・生活環境

以下はすべて、東広島キャンパスで学んでいる八学部(総・文・教・理・医・歯・工・生)の一年生約一〇〇〇人についての集計結果である。「図書館は利用しやすい」は七七%と高い。完成したばかりの西図書館だから、当然であろう。しかし、「図書

他大学卒業後再入学者一%、大検合格者〇・五%であった。

「広島大学への進学を決めるに当たっての重要な項目」は、回答率の高い順に「国立大学だから」、「勉強したい学部学科があった」、「学費が安いから」、「総合大学だから」、「成績に見合っていた」、「入試科目が自分に有利だった」などであった。

広島大学での学生生活は、六二%の者が「おおよそ期待していた通りである」と答えており、「期待以上」は一四%、「期待と違っていた」は二二%であった。男女間で有意な差はないが、学部別の差は大きい。期待と違っていた主な理由としては、東広島キャンパス及びその周辺の環境に対する不満、授業内容、人間関係に関するものなどが多かった。

今後の学生生活については、「今の学部・学科で勉強に励みたい」が最も多い(六四%)が、「ほどほどに勉強したい」が二七%、「可能ならば転学部・転学科したい」が八%、「退学(他大学の受験)・就職等を考えている」が二%近くいた。約一割が転学部・転学科・退学を考えていることになる。

「現時点での卒業後の志望進路」は、学校教員(二%)、大学院進学(二%)、公務員(七%)、医師や弁護士などの専門職(二四%)、民間会社(二四%)の順になっている。なお、未定の者が一五%いる。

宿舎二%となっている。女子はそれぞれ五六%、一八%、一五%となっている。キャンパスへの最終的な交通手段は、自転車五五%、自動二輪一六%、バス一五%、自動車一三%であるが、男子では自動二輪二二%、女子ではバス二一%と性別による違いが大きい。なお、下宿生の六四%は、バスの便が不満だと答えている。田園地帯に多いアパートの近くにはバスが通っていないからであろう。

食料品と電気製品の購入場所は東広島市内、衣類は広島市内(それぞれ約三分の二)であるが、本は東広島市内(四〇%)、キャンパス内売店(三六%)、広島市内(二%)となっている。家庭教師や塾講師等をしている者は二〇%、店員一三%、飲食店一〇%など(複数回答)となっており、アルバイトをしていない者の方が圧倒的に多い。場所別には、店員、飲食店は東広島市内が多いが、家庭教師等は圧倒的に広島市内が多い。

キャンパス内利便施設への満足度を「満足」、「まあまあ」、「不満」の三択で質問した。「満足」の回答者の多い順に列挙すると、食堂・喫茶店三四%、郵便ポスト三〇%、書店二九%、キャッシング・サービス二八%、公衆電話二〇%、理髪店一六%、電気・スポーツ用品店一〇%となっている。このうち、電気・スポーツ用品店、公衆電話は、「満足」よりも「不満」の方が多かった。

## 四. 改善の要望

自由記述により求めた改善の要望については、次のようなものがあった。  
①受験生に対する広島大学の情報提供や入試の方法  
受験生に対する情報の提供が、特に授業内容や教官の研究内容及び東広島キャン

## おわりに

自由記述の感想では、アンケート事項に対する不満とともに改善への期待も種々寄せられた。自己点検・評価委員会ではこのアンケートの結果を基に数々の課題を提起するため、白書を刊行し学内外に公表した。最も大事なことは、これが改革・改善に結びつき、統合移転を完了した広島大学の、真の総合大学への発展に寄与することである。改善への期待に応えるためにも今後の成り行きに注目していきたい。

# 「教育と学習環境に



## ② 学生生活の支援体制

朝食(八三%)と夕食(八七%)は自炊が多いが、昼食は八一%の者がキャンパス内の食堂を利用する。男子の二四%は朝食抜きである。

住居は、東広島市及びその周辺の下宿やアパートに住む者が六二%と最大で、以下、広島市及びその周辺の自宅が一五%、学生

## ③ 学生生活の支援体制

「地域の人の知人ができた」者は三二%いた。「ごみ出しなどで近所の人から苦情を言われたことがある」者は二%と少ないが、「夜遅くまで騒音を出して苦情を言われたことがある」者は一〇%(男一二%)に上っている。

## ④ 学生生活の支援体制

「建物や教室」は、新築なった総合科学部で授業を受けているのだが、満足は五三%であった。「教室の座席は窮屈である」は五四%、「過大な学生規模の授業が多すぎる」は三七%にも上っている。

回答者中、何らかのサークルに加入している者は六七%いる。加入者の内訳は、体育同好会系二六%、体育会系二〇%、文化系一%、音楽・芸術系八%、その他一%となっている(重複回答)。

## ⑤ 学生生活の支援体制

「開架図書」は満足している者は四八%、「開架図書の量」では四〇%と満足度は低くなる。さらに、「必要な本が大学の図書館や図書室で閲覧できる」は五六%、「必要な本が、キャンパス内の書店で購入できる」は五五%、「必要な本が東広島市内の書店で購入できる」は三三%であった。

## ⑥ 学生生活の支援体制

「建物や教室」は、新築なった総合科学部で授業を受けているのだが、満足は五三%であった。「教室の座席は窮屈である」は五四%、「過大な学生規模の授業が多すぎる」は三七%にも上っている。

回答者中、何らかのサークルに加入している者は六七%いる。加入者の内訳は、体育同好会系二六%、体育会系二〇%、文化系一%、音楽・芸術系八%、その他一%となっている(重複回答)。